

令和5年度 兵庫県立松陽高等学校(定時制課程) 学校自己評価結果

【平均点】 A…できた(5点) B…まあできた(4点) C…あまりできなかった(2点) D…できなかった(1点)				令和5年度の活動評価			来年度の改善方策			
重点事項	努力事項(評価項目)	実践目標	評価内容	担当	経年比較(平均点)					
					R4	R5				
基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、安全で楽しい学校づくりを目指す。	基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図るため、	定時制高校生としての自覚を促し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	1 あいさつや敬語など基本的なマナーを定着させる指導をする。	生徒指導部	3.9	↗	4.0	声の大小はあれど、ほぼすべての生徒が校門前や昇降口だけに聞わず、挨拶ができています。時間についてもほとんどの生徒が守ることができているが、ごく少数の生徒にそうでない生徒がいる。	しっかりと聞こえる声量でのあいさつを行えるように指導していきたい。日々の声掛けや全校集会などの場で気持ちよくあいさつができるように指導していきたい。また、時間に余裕を持った行動を心掛けるなど、時間を守ることに対する意識を高めさせたい。	
			2 時間を守る(登下校、授業の開始など)指導をする。		3.7	↗	4.1			
		教職員の共通理解のもとに、生徒の特性や能力など個に応じた生活指導をする。	3 教職員を対象とした生徒指導研修会を計画的に実施し、指導に生かす。		3.3	↘	3.2			面談週間などを活用し、生徒理解を深めることができた。また、普段からの教員からの声掛けなどにより生徒の変化に敏感に気づくことができています。
			4 生徒理解を深めるために、個別面談等を実施し、有効に活用する。		4.8	↘	4.7			
		関係機関や家庭・地域の連携のもとに、交通安全指導を実施する。	5 警察など関係機関と連携し、生徒の交通安全に対する意識高揚に努める。		2.4	↗	3.3			登校時の校門立番、放課後の巡回指導を中心に、事故やトラブルの未然防止に努めた。
			6 通学マナーの向上のため、立ち番や巡回などによる指導を徹底する。		4.4	↘	4.3			
	学校と家庭や地域社会との連携を密にし、「共に生きる社会づくり」に参画できる精神を培う。	7 ホームページや学校通信などを活用し、学校の教育活動や方針、各種連絡事項についての情報を発信し、家庭との連携に努める。	4.4	↗	4.5	学校ウェブサイトは更に内容が充実し、常に新しい情報を発信し続けることができた。また、Teamsやさくら連絡網を使うことで、生徒や保護者のみなさまに素早く情報を発信することができた。	来年度は双方向通信型のウェブサイト構築したいと考えている。生徒や保護者のみなさまからの意見を取り入れることを可能とし、更なる発展を図りたい。			
		8 地域貢献事業など、学校と家庭、地域社会と協働した教育活動や行事を計画的に実施する。	4.1	↗	4.5			今年度は、6月と2月両方のふるさと貢献活動事業で、保護者の方々や地域住民の方々や清掃活動が行えた。参加した生徒ははとでもはじめに取り組み、時折、保護者や地域住民の方々とも触れ合う姿も見られた。		
	分かる授業を展覧し、基礎・基本の定着と向上を図る。	生徒の進路希望を実現するため、就業体験事業やHRを計画的に実施するとともに情報提供、個別面談を実施し、未就職者の減少に努める。	9 進路だよりの発行や進路HRの計画的な実施によって、生徒の職業感や進路意識の高揚に努める。	進路指導・人権部	4.8	↘	4.6	・進路通信は月1回のペースで、「さくら連絡網」を活用して発信できた。 ・「さくら連絡網」のアンケート調査機能を利用して、保護者と共に生徒の進路実現に向けて情報交換及び提供ができた。 ・地元企業と連携して、アルバイトからの正社員採用の道を開拓することができた。 ・進路指導の際に、生徒のスマホから就職関連の情報が確認できたり、報告書やアンケートを提出させるようにしている。結果として、情報の集積がスムーズになった。 ・就業体験事業を学校として実施する体制が整った。 ・就労移行支援事業所や就労継続支援A・B型事業所、放課後等デイサービスとの連携も深めることができ、支援を必要とする生徒に対する進路指導についても一層充実することができた。 ・コミュニケーション能力の低さやから、就職試験やアルバイトの面接に困難を抱える生徒が多かった。	就職の際に、面接で課題を抱える生徒が多かった。コミュニケーション能力の低さが問題と考えられる。このような生徒に対して、早い時期からコミュニケーション能力を高める場面を引き続き提供していきたい。 ・電車やバスなどでの自由な移動に困難を抱える生徒が多い。このような生徒に対しても、早い時期から訓練できる機会を学校生活全体を通してさらに提案していきたい。	
			10 地元企業などへの会社訪問を計画的に実施し、求人の開拓や情報収集を図る。		4.6	→	4.6			
			11 地域の人材や外部講師を活用するなどした、HRや進路説明会などを実施する。		4.7	→	4.7			
			12 生徒の進路実現に向けて、就業体験事業(年間最低1回)を実施する。		3.9	↗	4.4			
		理解しやすく楽しい授業を展開し、生徒が主体的に学ぶ力を培い、学習意欲を高めさせる。	13 成績処理システムの整備等により生徒の学習状況を把握・分析し、授業に集中できる環境づくりに努める。	教務部	4.3	↗	4.4	例年通り定期的な公開授業週間により、お互いの授業を見学・評価し、改善に繋げることができた。各教科の特性に応じた授業が行われており、授業に活気を感じている。教員・生徒とともに昨年度より更にICT活用の場が増え、授業の幅が広がっている。	公開授業や研究授業がやや形骸化しつつあるように感じている。教科と連携し、目的を明確にし、更なる授業改善に繋がるような公開授業をおこないたい。また、各教科の研修会で勉強してきた内容を全体に共有し、活用できるような環境を作りたい。	
			14 校内研修や公開授業などにより、授業・指導法の研究に努める。		4.3	→	4.3			
			15 理解しやすく楽しい授業を目指し、研究会・研修会への参加など教科指導や学習方法の工夫・改善に取り組む。		4.4	↘	4.3			
		生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	16 確かな学力の定着を目指して、T.T(チーム・ティーチング)等を活用し、個に応じた学習指導を行う。	教務部	4.4	↘	4.1	3修制は今年度より整備を図った。3修制科目の内容を明確にし、生徒ひとりひとりが自分の現在または将来必要な能力を養える講座を選択できるようにしている。T.Tを行うことができる科目は限られているため、生徒ひとりひとりに対応することは困難な中で、趣向を凝らし今できる最善を尽くした。総合的な探究の時間では、コーピング・防災教育・赤ちゃん先生など各学年ごとに特徴的な活動を行った。	様々な個性を持った生徒が増えてきており、個に応じた学習指導が難しくなりつつある。限られたキャパシティの中で、生徒の興味・関心から逃れることなく個に応じた指導をどう行うかは大きな課題である。来年度は1年生の数学でも再度T.Tを行うことを予定しており、個別の指導をしやすい環境を整える予定である。	
			17 生徒の興味・関心や進路希望に応じた学習活動を実施する。		4.3	↘	4.1			
			18 3修制の整備を図り、各教科間の連携を深めるとともに、総合的な学習の時間やLHRを利用して、基礎的な学力の向上を図る。		4.7	↘	4.2			
		生徒の生命と財産が守られ、育環境を構築する。	阪神・淡路大震災の教訓を生かし、防災教育を計画的におこなうとともに、生徒の防災・安全意識の高揚を図る。	総務部	19 生徒の教育活動が安全かつ円滑に実施できるよう、学校設備の点検や整備などを定期的実施する。	3.9	↘	3.3	生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう事務室と連携し、施設の破損や不具合等の点検、修理等を行ってきた。	今後も生徒の安心・安全のために事務室を連携し、施設・設備の点検、修理を行ってきたい。
					20 消防署など関係機関との連携を密にし、避難訓練などの参加型・体験的な教育活動を効果的に実施する。	4.1	↗	4.3		
	21 学年行事やHR活動など特別活動を活用して、防災意識や安全意識の高揚に努める。				4.4	↗	4.5	防災に関する講話を様々な行事を通して行った。また、防災ジュニアリーダーが参加した募金活動や学習会等について、生徒の前で発表することで、防災知識や意識を更に高めることができた。		
	保健衛生や健康に関する基本的な知識を深めさせ、自己の健康管理への意識を高める。		保健部	22 定期健康診断を計画的に実施し、受検率を向上させ、生徒・教職員の「健康管理」に対する意識向上を図る。	4.4	↗	4.5	生徒の定期健康診断の受診率は昨年度に引き続き、良好である。保健講話に関しては、多種多様な悩みや問題を抱えた生徒の現状を踏まえ、今年度は著名な子育て支援アドバイザーの方にご講演をいただいた。誰かに相談することや自分を大切にすることの重要性について、生徒や教職員と密に関わりながら話していただき、生徒が自身を振り返り、前向きに生きていく姿勢を身に付けるよいきっかけとなった。給食等のゴミ分別については概ね適切にできており、教室で食べていない生徒がいれば、教員がしっかりと指導できていた。	定期健康診断の受診率については、生徒に丁寧に声かけをしなが維持していきたい。保健講話に関しては、次年度も在校生の状況を踏まえてテーマを設定する。今年度末で給食が終了するため、各自の飲食マナーに関する指導について、部で検討していく。	
				23 生徒・教職員の保健・衛生に関する意識を高めるため、保健講話の実施や配布物・掲示物を作成する。	4.3	↗	4.6			
				24 補食(パン給食)を食育やマナー指導の機会と捉え、衛生意識および食のマナーの向上に努める。	3.9	↘	3.8			
	生徒一人一人の悩みを早期に把握し、楽しく充実した学校生活がおくれるように、「心の健康教育」を充実させる。		進路指導部	25 生徒や保護者・教職員の「心の健康教育」の充実に役立つよう、制度の周知に努め、教育相談を実施する。	4.1	↗	4.3	生徒対象の教育相談に関しては、定期的実施することができた。教職員による玄関でのあいさつ活動を実施することで、生徒の些細な変化に気づくことができ、こまめに情報共有をすることができた。カウンセリングマインドの職員研修も計画通り開催することができた。	生徒の中には、自分からなかなかSOSを発することができない者もいる。日々のあいさつ活動を中心に生徒の見守り体制を強化し、必要な生徒には教育相談を勧める。職員研修に関しても、状況に応じてテーマを考え、引き続き実施していく。	
				26 「心の健康教育」推進のために、教育相談に関する研修を計画的に行い、カウンセリング・マインドの涵養に努める。	4.4	↗	4.5			
	いじめの予防、早期発見・早期対応に努め、いじめのない安心安全な学校づくりに努める。		生徒指導部	27 教職員の人権意識を高めるため、研修会などを計画的に実施する。	4.1	→	4.1	・来年度法制化される企業等の合理的配慮の義務化を見据えて、兵庫大学障害者支援オフィスより講師を招き研修を実施した。 ・中央子ども家庭センターと連携して、支援を必要とする生徒のサポートを実施した。 ・高砂市子ども包括支援センター、姫路市子ども家庭総合支援室、高砂市障害福祉課等と連携して、支援が必要な生徒のサポートを実施した。 ・高砂市障がい者基幹相談支援センター等、各市町の基幹センター等と連携して生徒の支援を実施した。	・人権意識を高揚する内容を、本校の生徒の特性や状況に応じた形で計画的に実施できるように考えていきたい。	
				28 国際理解教育の推進や人権意識の高揚のため、HRや学校行事などを活用し、「人権教育」を計画的に実施する。	3.7	↘	3.5			
				29 いじめ防止基本方針についての研修を通して、いじめに対して毅然とした態度で臨む指導を徹底する。	3.9	→	3.9			
	いじめの疑いがある事実を把握した場合やいじめを察知した場合は情報の収集、記録情報の共有、いじめの事実確認を行い、迅速にいじめの解決に向けた組織的対応を構築する。		生徒指導部	30 未然防止及び早期発見のために、いじめに対する教職員の資質能力の向上を図る校内研修など、年間の指導計画を策定する。	3.8	↘	3.5	教職員全体で常に「安心・安全な学校づくり」を心掛けている。いじめに繋がりがかねない行動や言動に注意し、些細なことであっても見逃さないよう、学年や生徒指導部を中心に対応できた。	各学期のいじめアンケートについて、現状は用紙に記入する方法で実施している。Microsoft Formsを活用して実施するなど、アンケート方法を工夫することで、より生徒が声を上げやすい環境を作りたい。	
		31 いじめの疑いがある事実を把握した場合やいじめを察知した場合は情報の収集、記録情報の共有、いじめの事実確認を行い、迅速にいじめの解決に向けた組織的対応を構築する。		4.2	↗	4.3				
学校関係者評価委員会からの提言										
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒第一に考え、生徒の未来を明るく楽しくなるように導いてください。また、社会の厳しさを教えてあげてください。自主・自立の後押しをお願いします。 ・アルバイトであられるものは大きいので、アルバイトの指導をされていることは生徒の将来に必ず役に立つものと思います。 ・早期退職の原因に職場とのミスマッチが挙げられます。依存→自立のプロセスを教育の中に導入することが必要です。 ・昨年の活動等と比較して課題を認識し、改善が見られ、良い取組だと思います。 ・カウンセリング等専門的な知識をもった人を増やしてはどうでしょうか。 										